

議事録 概要

第2回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～

テーマ：ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚について

日時：令和7年7月17日（木） 午後6時30分～午後8時40分

場所：西谷会館 屋内活動室

参加者：38名 市出席者：森市長

《市長のテーマ説明》

1 まちづくりの理念

理念：「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち」

「ひとりひとりにやさしい」

市民一人一人の価値観を尊重し、対等で調和の取れた関係を築く。

「ささえあいのまち」

市民同士が自ら助け合い、市はその調整役となる。

理念の原体験

共働学舎での共同生活

多様な人々と役割を分担する経験から、多様性を尊重する重要性を学んだ。

阪神・淡路大震災でのボランティア経験

災害時に助け合う姿を見て、地域社会での協力の大切さを実感した。

2 財政の現状と課題

貯金 約400億円（そのうち50億円は財政調整基金）。

借金 約700億円だが、健全性は保たれており、返済計画も順調。

最大の課題：構造的な赤字

収入562.9億円、支出569.2億円で、毎年約6.3億円の赤字。10年後に財政調整基金が枯渇する恐れ。

対応の必要性

恒常的な支出の見直しが必要で、年間7億円の削減が急務。

長期的な財政健全化

財政基盤の安定化に向けて支出計画の見直しと効率化を進め、持続可能な経営を目指す。

《対話》

1 参加者【障碍福祉基金について】

- ・障碍福祉基金について、市議会で廃止提案があったと聞いている。
- ・積み立てが続く中、活用方法が重要ではないか。
- ・市長として今後の基金の活用についてどう考えているのか。

➔ 市長

- ・かつての現金給付制度廃止後、その分を障害者支援の基金として積立開始。
- ・ニーズが多様で使いにくく、残高は約 14 億円に増加。
- ・初めて同額を支出し、実質積立ゼロに。団体との合意の上で実施。
- ・一部議員から「今年だけ積立ゼロに」という提案があったが否決。当提案には「約束と整合性が取れない」と考えている。
- ・年度内に障害者団体と議論し、基金の方向性を見直す予定。

2 参加者【西谷地域への市長の思い、考え方について】

- ・市長に西谷地域（にしたに）への思いや考えを聞きたい。
- ・宝塚市の人口に対して西谷は少数（約 2,000 人、高齢化率 50%）だが、どう捉えているか知りたい。

➡ 市長

- ・西谷は人口は少ないが、市の面積の約 3 分の 2 を占める重要な地域。
- ・自転車でよく訪れており、里山の風景に個人的な思い入れがある。
- ・共働学舎などの経験から、故郷のように感じている。
- ・宝塚は都市部と里山を併せ持つ多様なまちであり、日本の少子高齢化を乗り越える「縮図」になり得ると考えている。

3 参加者【西谷地域の将来について】

- ・人口 2000 人、高齢化率ほぼ 50%の西谷の将来に不安がある。
- ・宝塚市 22 万人の中で、西谷のような地域がどう支えられていくのか、市長の考えを聞きたい。

➡ 市長

- ・国連時代に高齢化対策を担当し、国内外の成功事例を多数見てきた。
- ・人口 2000 人規模でも工夫と覚悟があれば再生できる（例：徳島県上勝町）。
- ・西谷も、ただ支援を待つのではなく、自立の道を考えることも大切。もちろん市としても、必要な支援は行っていく。
- ・「自立」と「支え合い」、その両方を大切にして西谷の未来をつくっていききたい。

4 参加者【ささえあいの仕組みについて】

- ・かつては 5,000 人いた西谷も、今は 2,000 人で広大な自然を高齢者が守っている。
- ・「自立したくても、都市近郊という立地だからこそその限界」がある。
- ・市街地も、自然から恩恵（酸素・環境）を受けていることを忘れないでほしい。
- ・自然を守るため、市街地からボランティアや人的支援を送って、支え合う仕組みを考えてほしい。

➡ 市長

- ・同じ課題意識を持つ自治体（例：世田谷区）は、地方と連携して支え合いのモデルを作っている。
- ・宝塚市も南部（都市部）と北部（西谷）で連携し、市内で完結する支え合いができる可能性がある。
- ・人口減少や高齢化が進む中で、「少人数でも里山を守る仕組み」も一緒に考えたい。
- ・応援する意思はあるが、「一方的な支援」ではなく、ともに考え動く関係が大事。

5 参加者【移住・就農について】

- ・ダリア生産の後継者不足に危機感を感じ、就農セミナーに参加。
- ・空き家や耕作放棄地が増える中、若い世代が孤立感を感じている。
- ・解決策として「移住+就農」を一体で考える必要があると実感。
- ・総務省と農水省の管轄が分かれている中、窓口を一元化して成功している事例（南信州）に注目。
- ・宝塚市でも、移住・就農を一体で支援する窓口を設けてほしい。

➡ 市長

- ・都市計画の制限はあるが、移住と就農は切り離せない課題。
- ・西谷は「通える田舎」として立地的に有利であり、試行から本格移住へのステップも可能。
- ・市役所内で部署が分かれていても、市町村レベルなら横の連携が可能。
- ・情報発信の工夫（全国からの就農希望者に見つけてもらう方法）も検討したい。
- ・空き家対策は法整備が進み、司法書士とも連携して今後さらに力を入れていく。
- ・ダリア園についても、対応を進めていく。

6 参加者【地域ビジョンと福祉まちづくり、医療体制の充実について】

- ・昭和30年に西谷が宝塚市に合併した際、「大宝塚」を目指すという構想があった。
- ・住民による将来ビジョンづくり（小中学生の意見、アンケート、2年かけた調査）を行い、具体的な資料を市に提出済。
- ・西谷地域に「福祉のまち」構想を展開できる可能性あり（自然・広さ・県有地などを活用）。
例：青空デイサービス、障害者施設、健康づくり拠点などを整備し、南部の市民も訪れる魅力に。
- ・財源は国の補助金・県有地・民間活力などを組み合わせれば可能性はある。
- ・病院の閉院があり、今の診療所では患者が多すぎて対応が難しい。中規模の診療所に機能強化してほしい。
- ・命を守るインフラとしての医療体制を地域に維持してほしい。

➡ 市長

- ・住民の将来ビジョン（調査やアイデア集）に敬意を表し、しっかり目を通す。
- ・福祉のまち構想は面白いアイデアで、県有地や自然資源を活かす方向性を前向きに検討したい。
- ・県知事も県有林に関心を持っており、今後の協力が期待できる。
- ・ただし、今すぐ実現とはいかず、構想や企画を練っている段階。地元の知恵を借りながら進めたい。
- ・医療体制については、診療所の再構築を真剣に検討中。
- ・医師にとっても「働きやすく魅力ある形」にしないと難しい。お金だけでなく、仕事としてやりがいを感じられる医療環境づくりが大切。
- ・しばらくお時間をいただきたいが、必ず良い形にしたい。

7 参加者【災害時の避難・復興拠点の活用について】

- ・以前「しあわせの村」に勤務していた経験から、防災拠点としての可能性に注目。
- ・南海トラフ地震など大規模災害時、市街地の被災者を受け入れる場所として西谷を活用できないか。
- ・市としての活用方針について市長の考えを聞きたい。

➡ 市長

- ・「しあわせの村」は成功事例として参考になると評価している。
- ・同様の施設を作るには課題も多く、慎重な検討が必要と認識。
- ・災害対策としては既に伊丹駐屯地、自衛隊病院、大阪空港などと連携を検討中。
- ・宝塚市立病院やインター・サービスエリアの活用も視野に入れている。
- ・提案に感謝しつつ、今後も幅広く検討を進めたい。

8 参加者【西谷小中学校と小規模特認校制度について】

- ・西谷では子どもの数が減少し、学校存続が危機的状況に。
- ・地域・保護者・教育委員会の協力で、小規模特認校制度を導入。
- ・目的は単なる人数増ではなく、安心・健やかな学びの場の確保。
- ・市長の経験や想いを子どもたちに直接伝えてほしい。
- ・小規模特認校として、もっと多くの子どもが通えるよう応援してほしい。

➡ 市長

- ・市内すべての学校訪問を予定しており、西谷小中学校にも必ず行く。
- ・小規模特認校である西谷小中学校を軸に、教育のあり方を考えていく。
- ・自身の経験から、自然・暮らしの中での学びが大切だと考えている。
- ・西谷の恵まれた環境を活かし、探究的学びの拠点にしたい。
- ・市の公教育改革のスタート地点にしたいと考え、現在具体化を検討中。

9 参加者【南北の交流と交通整備について】

- ・宝塚市は南北で高齢化や環境に大きな格差がある。
- ・南北の支え合いには「交流」が必要で、交通整備が鍵。
- ・現在のバス運行（例：阪急バス）は利用が少なく非効率、費用も高額。
- ・スクールバスやコミュニティバスへの移行を提案したい。
- ・熱心な職員の力を活かす「チーム宝塚」のような形で、「チーム西谷」の編成・設置を提案したい。

➡ 市長

- ・バスの課題は重要と認識しており、持続可能な形での見直しを検討中。
- ・西谷地域の交通改善は最優先課題として対応していく。
- ・地域への熱意を持つ職員が多く、職務以上に貢献している事例が多い。
- ・今後は、地域連携を強化できる仕組みも視野に入れて検討していく。

10 参加者【地域の支え合いと将来像について】

- ・高齢化・少子化など地域課題に直面。消防団も高齢化。
- ・財政の厳しさは理解しているが、福祉重視で他のインフラ整備に力が入っていないという声もある。
- ・「支え合い」「寄り添い」は重要だが、声かけなど住民からの積極的な関わりも必要。
- ・地域に合った寄り添いの姿勢を持って、活動を進めてほしいと要望。
- ・対話の場に感謝し、今後も住民とともに歩みたい。

➡ 市長

- ・「寄り添う姿勢」は非常に大切と共感。自らも市全体に寄り添う姿勢で取り組みたい。
- ・地域からの声を引っ張ってくれる存在はありがたい。
- ・多忙な中でも気づいた点があればぜひ伝えてほしい。現場の声を受け止めながら、進めていきたい。

11 参加者【高校生の通学支援の課題認識と対応について】

- ・子どもが高校に進学し、通学のバス本数の少なさに困っている。
- ・バス定期は高額の割に利用機会が少なく、送迎を選ばざるを得ない。
- ・何らかの支援や方法があれば助かる。
- ・神戸市では通学定期の補助があると聞いた。宝塚市でも導入してほしい。
- ・原付通学も検討したが、校則や「乗らさない運動」により許可されず、地域事情に配慮した柔軟な対応が必要と思う。

➡ 市長

- ・通学の負担やバスの課題は十分認識している。
- ・市内の高校の校長とも話し合いがあり、バス利用の困難さが共有されている。

- ・バス会社にとっては西谷は乗客が少なく赤字状態であり、運行継続も難しい状況。
- ・すぐに解決策を出すのは難しいが、他市の事例なども参考にしながら検討中。
- ・原付利用の件も含め、制度や運動の確認を進める。

12 参加者【西谷の農産物の物流について】

- ・西谷の魅力を活かすには物流が重要。
- ・南部の飲食店では西谷の食材ニーズがあるが、物流が課題。
- ・現在は農家や店が個別対応している。
- ・小さなやり取りを積み重ねて”移動”の基盤を作りたい。

➡ 市長

- ・都市近郊のため物流の課題が見えにくい可能性がある。
- ・都市から遠い地域の方が物流整備が進みやすい。
- ・西谷のような地域は戦略的判断が難しい。